

16:37 <NQN>◇上海株大引け 反発、値ごろ感と金融不安後退で AI 関連に買い  
NY2804

【NQN香港＝瀬崎真知子】17日の中国・上海株式相場は反発した。上海総合指数の終値は前日に比べ23.6548ポイント（0.73%）高の3250.5460だった。指数の下げが足元で目立っていたため、値ごろ感から買いが入った。資金繰りが懸念されていた米国の中堅銀行への支援策の発表が伝わると、中国本土市場でも金融システム不安への過度な懸念が和らぎ、買いが広がった。

人工知能（AI）関連銘柄が高い。コンピューター関連や通信が上昇。半導体や機械設備なども買われた。

大唐金融上海の洪海アナリストは「春節（旧正月）以降、A株市場は大きく二極化している」と指摘。AIなど特定の銘柄に物色が偏っているとしたうえで「国内経済が安定した回復の初期段階にあり、外部資金が株式市場に参入したことが主因」との見方を示した。

中国の国営新華社は16日、中国共産党と国務院（政府）が新たな機構改革案を正式に公表したと報じた。「中央金融委員会」と「中央金融工作委員会」、「中央科技委員会」が新設されることに関し、洪氏は「A株と関係がある」とした。今後、金融資本とイノベーション・科学技術の緊密化、相互連携が進むとみる。

半面、バッテリー関連が下落。酒造が売られ、医薬品、金属の一角なども下げた。

上海のハイテク新興企業向け市場「科創板」の50銘柄で構成する「上証科創板50成分指数」は2.35%高だった。

深セン市場で深セン総合指数は0.52%高。新興企業向け市場の「創業板」指数は0.36%安となった。車載電池の寧徳時代新能源科技（CATL）が2.4%安となり、相場を押し下げた。

上海と深セン市場の売買代金は合計で9731億元。香港との証券相互取引を通じた海外投資家による中国株売買は買い越しだった。